

2022 全日本ボクシング選手権大会



歴代最多
7階級制覇

令和4年11月22日～27日までの間、東京都墨田区総合体育館で実施された2022年全日本ボクシング選手権大会に本校ボクシング班から9名が参加し、7名が優勝する快挙を成し遂げた。

優勝した7名については、来年実施予定である杭州アジア競技大会（パリ五輪予選となる予定）への出場権を獲得するため、BOXOFF※1に挑む。



貫禄の2連覇

写真左 並木3曹、右 コーチ矢田1曹

3等陸曹 並木 月海

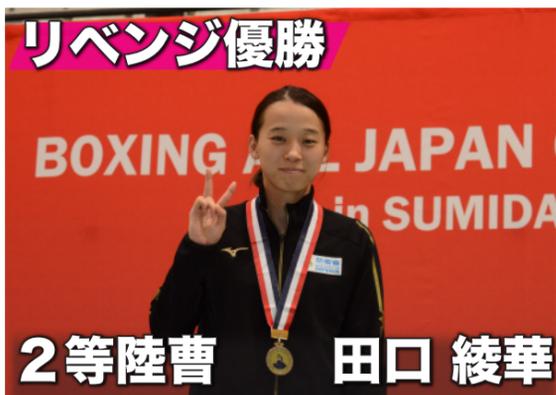
銀メダルを獲得したアジア選手権大会（ヨルダン）から帰国し、約10日での試合となった並木月海3等陸曹は、女子ライトフライ級準々決勝、準決勝と日本体育大学の選手を相手に3ラウンド RSC※2勝ちで決勝進出を決める。決勝の相手は、ジュニア時代から日本代表として活躍する長身の篠原選手（青山学院大）。足を使いリングをサークリングしながら鋭いステップで攻撃をしかける並木3曹と、それを追いながら長いストレートでヒットを狙う篠原選手だったが、ボディーへのストレートと角度を変えた力強い左右のパンチで圧倒し、終始主導権を握った並木3曹が2年連続2度目の優勝を果たした。試合後、「（アジア選手権大会から）長期間の試合モードから解放されるので、楽しく食事ができます。今後は、パリ五輪に繋がる BOXOFF に合わせて作り上げていきたい。そして、とにかく純粋にボクシングを楽しみたいです。」と語った。

入隊1年目の堀内美沙紀2等陸曹は女子バンタム級準決勝から登場した。東洋大学のホープ原田選手に勝利し勢いによって臨む決勝戦は、アンダージュニア（小・中学生の部）からの実力者である小川選手（小川鉄工）との対戦。第1ラウンド、出入りのフットワークでリズムをとり、前にでてくる相手の攻撃をバックステップで外し反撃の右ストレートをヒットさせる。また、接近戦でクリンチをする相手には左右のパンチをアグレッシブに振り当てポイントを稼いでいく。第2ラウンド以降も挽回しようとする相手に再三パンチをヒットさせポイントで相手を上回り、自身初の全日本選手権優勝を果たした。試合後、「今までずっと3位だったので全日本チャンピオンまでやっとこれました。長かったです。今後は、課題を修正し BOXOFF、そしてパリ五輪に向けて頑張っていきたいです。」と冷静に語った。



悲願の初優勝

2等陸曹 堀内 美沙紀



リベンジ優勝

2等陸曹 田口 綾華

昨年準優勝の田口綾華2等陸曹は、女子ライト級準決勝を危なげなく勝利し、決勝の相手は昨年の優勝者である田中選手（芦屋大学）。サウスポー同士の対戦、当初、右ストレートの差し合いで田口2曹のパンチがヒットする。相手のワンツーストレートを外しながら左ストレートをヒットさせリズムに乗る田口2曹は、第2ラウンド以降も更にタイミングを掴み、ストレートパンチを深くクリーンヒットさせポイントを重ねる。終始自分のペースで試合を運び、有効打を当て続けて5-0のポイント勝ち。通算3度目の全日本選手権優勝を果たした。セコンドについた成松1尉が「やってきたことが全部でた。」というように完勝の内容だった。試合後、「やりたいことができました。前に出てプレッシャーをかけて攻撃することができました。パリ五輪でメダルを獲得するように頑張ってお練習していきたいです。」と笑顔で語った。



新鋭を抑え2連覇



2等陸曹 牧野 草子

昨年の全日本王者である牧野草子2等陸曹は、男子フライ級準々決勝、準決勝と5-0の完勝でポイント勝ちし、決勝の相手は大学リーグ戦や国際大会で活躍する吉良選手（東農大）。体育学校に入校後、著しい成長をみせる牧野2曹は、素早いフットワークから鋭い踏込みで上下にパンチを打ち分けた。第2ラウンドは積極性を増して攻撃する吉良選手に対し、牧野2曹は巧みにフットワークを使いながらパンチを合わせていく。一進一退のハイレベルな攻防が続き迎えた最終ラウンド、素早く出入りしながら上手く相手の攻撃のタイミングを外し、終始動きを止めず有効なパンチを繰り出した。そのまま試合は終了し、4-1のポイント勝ちで2連覇を達成するとともに大物ルーキーを抑え存在を大きくアピール。試合後、「プレッシャーを大きく感じていたけど、落ち着いて試合をすることができました。相手の対策をしましたが、そのおかげで成長することができました。今後は出る試合すべて勝ち続け、その結果が五輪に繋がると思っています。」と語った。

秋山佑汰3等陸尉は、昨年と階級を変更して男子ライトウェルター級に出場。準々決勝、準決勝と完勝し迎えた決勝の相手は原田選手（駒澤大）。サウスポー同士の対戦、右ストレートの差し合いと上下の打ち分けの駆け引きが続く中、秋山3尉のシャープな左ストレートがヒットする。第2ラウンド、秋山3尉の右ストレートが有効かと思われたが、相手の積極的な攻撃が評価され4人のジャッジが相手を支持し最終ラウンド勝負となる。第3ラウンドも積極的な攻撃をしかける相手に右フックと左カウンターをクリーンヒットさせた秋山3尉が4人のジャッジに支持されポイント勝ちで優勝した。階級変更の減量乗り越えパリ五輪への道を繋いだ試合後のインタビューでは、「ただホッとしているのと本当に嬉しいです。相手の原田選手の気持ちが強く2ラウンドを獲られてしまいました。勝つことができました。すべての人に感謝したいです。今後は世界で知れた選手になりますので応援よろしくお願いします。」と安堵の表情で語った。

激戦を制し2連覇



3等陸尉 秋山 佑汰

接戦を制し初優勝



3等陸曹 田中 廉人

初優勝を狙う田中廉人3等陸曹は、男子ライトミドル級準々決勝をRSC勝ちし、準決勝は5-0のポイント勝ち。決勝の相手はサウスポーの野上選手（東農大）。第1ラウンド、プレッシャーをかけながら前に出る相手に対し、フットワークとボディーワークで防御しながら右ストレート、左フックをタイミング良く合わせる田中3曹だったが、相手の積極性が3人のジャッジに支持された。第2ラウンド、田中3曹は戦い方を変えプレッシャーをかけ前に出て攻撃をしかける。接近戦でもボディーへのパンチでポイントを加算する。相手も左ストレートで反撃し一進一退の展開が続き、最終ラウンドはお互い積極的にポイントをとろうと手数をだす。再びフットワークを駆使しながら内側からの確にパンチをヒットさせバランス良くクレバーに戦った田中3曹が4-1のポイント勝ちで、見事初優勝を飾った。試合後、「練習でやることをやってきたので、自分が絶対勝つてやるという気持ちで戦いました。（優勝が決まった瞬間は）最高に気持ちよかったです。今後は、BOXOFFでも絶対勝つてやるという気持ちを忘れずにいこうと思っています。」と目標を語った。

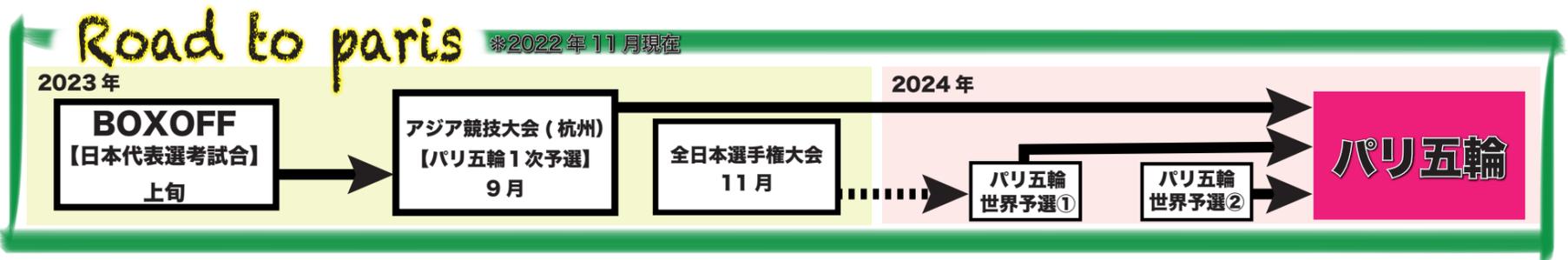
パリ五輪実施階級に合わせ、ミドル級からライトヘビー級に転向した森脇唯人3等陸曹は、準決勝から登場。1ラウンドRSC勝ちで決勝進出を決めた。決勝の相手はジョンソン選手（沖縄水産高校教諭）。第1ラウンドからスピードある左ストレートを放ち、相手を圧倒する展開。ガードするしかない相手にストレート、左フックをヒットさせる。肉体改造をやってきた森脇3曹は力強い攻撃を続け、第2ラウンドにはダウンを奪う。第3ラウンドも再びダウンを奪いワンサイドの内容で5-0のポイント勝ちで優勝し2階級制覇を達成した。試合後、「ひとまず勝ってホッとしています。7月から（階級を上げるため）、食事のメニューを変えて、フィジカルトレーニングを変えて、海外で勝つことができるようにやっています。ライトヘビー級はそんなに甘くないクラスだと思っていますが、今回手応えを感じていますし、早く国際大会に出たいです。」と自信を見せた。

怒濤の5連覇



写真左 森脇3曹、右 コーチ成松1尉
3等陸曹 森脇 唯人

※1：BOXOFF→アジア競技大会の日本代表選手の選考試合
※2：RSC→レフリーストップコンテスト（レフリーストップによる試合中止）



試合結果

氏名	階級	出身地	種目階級	結果
秋山 佑汰	3等陸尉	大阪府	ライトウェルター級	優勝
田口 綾華	2等陸曹	兵庫県	ライト級	優勝
牧野 草子	2等陸曹	埼玉県	フライ級	優勝
堀内美沙紀	2等陸曹	神奈川県	バンタム級	優勝
並木 月海	3等陸曹	千葉県	ライトフライ級	優勝
森脇 唯人	3等陸曹	東京都	ライトヘビー級	優勝
田中 廉人	3等陸曹	愛知県	ライトミドル級	優勝
富田 真広	3等陸曹	静岡県	ライトウェルター級	第3位

